

2. 5. 多様な取組みが期待されるEST

多様な取組みが期待されるEST

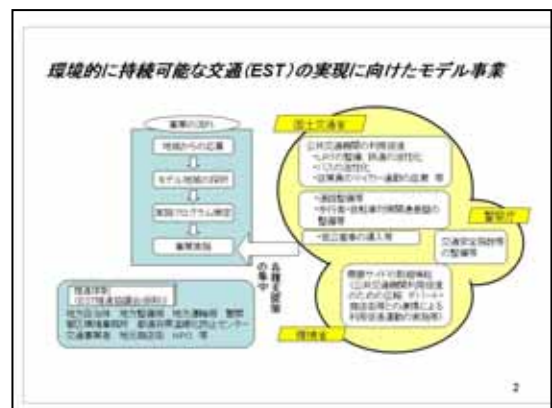
環境省水・大気環境局自動車環境対策課係長
見玉 知之

課長の岡部にかわりまして係長の見玉で発表させていただきます。



(スライド1)

まず、環境的に持続可能な交通(EST)の実現に向けたモデル事業ということで、環境省は、国土交通省、警察庁の3省庁で連携する中、需要者サイドの取り組み喚起といったことを、地域に対して支援していくという役割で実施させていただいております。



(スライド2)

平成17年度に支援した地域につきましては、17年度には11地域が選定されていたのですが、残念ながら4地域支援できなかった地域があり、7地域について支援いたしました。支援した地域は実施中であって、まだ最終報告前ですが、途中ながら主な地域の取り組み状況を紹介させていただきます。



(スライド3)

まず、北海道札幌市地域ですけれども、昨年12月までに3回のESTフォーラムが開かれました。これは、「未来に向けた交通とまちづくりとは？」という、地元の新聞の広告のページですが、12月までに3回のフォーラムが終わったということで、今年の1月1日元旦の一番オイシイところのページで紹介していただいたということもできました。



(スライド4)

続きまして、宮城県仙台市地域ですが、仙台駅前の周辺地域で100円均一区間があり、仙台駅を中心に“100円パッ区”という案内図ができていまして、これをもとに「100円パッ区親子ぼいんとラリー」というのを開催してバスの利便性を分かってもらうというのを実施しました。あと「公共交通利用促進市民会議」というのが行われました。



(スライド5)

愛知県豊田市地域ですけれども、ケーブルテレビの番組で地球温暖化防止を推進するような番組を放映したことでとか、中心市街地へのアクセス性向上施策モデルの検討をしつつ施策PRを伴う「ニーズ調査」の実施を行ないました。アンケートの結果については紹介しきれないので後日他の媒体で紹介したいと思います。



(スライド6)

三重県北勢地域におきましては、広報イベントとの連携とか、大型商業施設との連携とか、交通利用の促進という取り組みの広報を行いました。高校イベントとは、高校の学校祭と連携して地球温暖化防止の取り組みを普及啓発、大型商業施設との連携とは、パークアンドバスライドの広報とかいうことを行っております。



(スライド7)

奈良県奈良市地域に関しましては、つい先週の土曜日ですが、シンポジウムが行われました。「街を取り戻そう！人と環境にやさしい交通システムって？」と、特別講演に俳優の柳生博さん、基調講演に柳下正治教授をお招きして、パネルディスカッションが行われました。また、啓発チラシの作成・配布というのは、今回のお手元の資料にも備わっていますが、これを作成して配布されています。配布の仕方も工夫があって、地元の運転免許センターに免許の更新に来た方に必ず配ってもらうというかたちで配布したとか。



(スライド 8)

兵庫県神戸市地域におきましては、一つ、「交通まちづくりフォーラム KOBE」というのが計 4 回開催されました。また、「オープンカフェ実証実験」、「神戸環境展」、「低公害車フェア in 神戸」、「神戸旧居留地フリーウォーク」などは、こちらの広報を担当することで、関係機関と連携して普及啓発を行いました、という取り組みです。



(スライド 9)

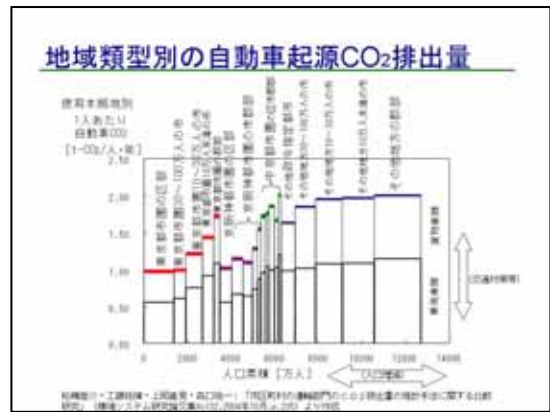
愛媛県松山市地域におきましては、「地球温暖化防止推進フェスティバル」というのが行なわれ、「交通行動アンケート」、「IC カードバスの利用体験」などを実施したと。もう一つ、私が EST モデル事業を担当していて面白いな、と思ったのは、「松山市環境にやさしい交通まちづくり学習」という、小学校 5 年生を対象に一種の環境教育を行なった、ということです。「なるほどな」、と思ったのは、小学校 5 年生は 10 歳くらいなのですが、この年代層をターゲットに地球温暖化防止に対する概念を教育すると、10 年 20 年たって実を結んでくるかなと。都市計画とかインフラ整備というのも、10 年 20 年というスパンでやりますが、こういった取り組みも、10 年 20 年と地道にやっていくのも大切な、と思いました。



(スライド 10)

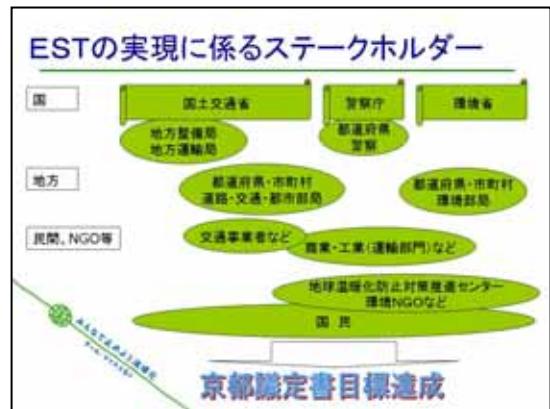
ざっと 7 地域についてはこんな取り組みであったわけですが、色んなことを駆け足で説明しましたが、色んな面白い取り組みが各地域から報告されていますので、今後何らかの媒体、例えばインターネットとかで情報提供して、いいものや悪いものを含め、皆さんに普及啓発に資する題材としてご提供できたらいいな、と思います。

実際の取り組みの話から離れますが、全体の話をしていきます。「地域類型別の自動車起源CO₂排出量」は、都市の規模や都市の地域特性によってかなりの格差があることが分かっております。ここには、東京都市圏、京阪神都市圏、中京都市圏、政令指定都市とか、一定の面積の人口規模当りの使用本拠地別自動車のCO₂排出量をここに並べているわけですが、かなり多様な地域が全国にあるということで、ますます地域の特성에応じたESTの実現に向けた取り組みというのが必要になってくる、ということが分かります。



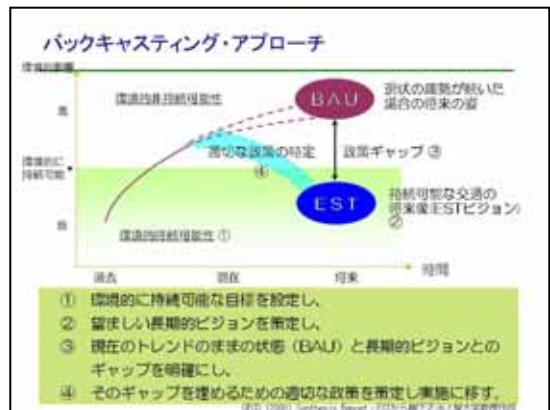
(スライド11)

それにつきましては、ESTの実現に係るステークホルダー、すなわち利害関係者というのがございますので、誰がどうこうというよりも、皆で連携してCO₂削減をしていき、ついては、京都議定書にある目標を2010年までに達成させる、ということが当面の目標ということで考えております。



(スライド12)

京都議定書目標達成というのが当面の目標でございますけども、そもそものESTにつきましては、バックカスティング・アプローチということで、ESTの取り組みの方向性というのはOECDから示されております。それは、環境的に持続可能な目標をまず設定して、次に望ましい長期ビジョンを策定します。この辺は、バックカスティングというよりもフォアカスティングに近いのですが、そして、現在のトレンドのままの状態（BAU）と長期ビジョンとのギャップを明確にし、ギャップを埋めるための適切な政策を策定し実施に移すということですから、京都議定書だけが達成の目標ではなく、3年とか5年とか言わずに、30年50年の長いスパンでの持続可能な交通体系の構築が必要だと考えられております。



(スライド13)

様々なステークホルダーの取り組みが必要という
ことで、本日、EST ステークホルダー会議という
のが新横浜のプリンスホテルで開かれております。
ここにおいては『30～50年先の長期を見据えた温暖
化対策が求められている中、わが国の目指すべき
EST ビジョンとは何か、その実現に向けて重点的に
取り組むべき課題は何か。EST に関する全国のステ
ークホルダーが一堂に会して行う先見的な議論を
通じて、出来る限りの合意点を探ります。』という
会議が開かれております。これは会議を開くことだ
けでなく、ここで得られる知見をいかに皆さんにお知らせするかの
というのが、普及啓発に資する
ものなので、後日何らかの形で取りまとめてお知らせしたいと考
えております。

ESTステークホルダー会議

◆ **テーマ**：「環境に配慮した持続可能な交通ビジョンと
その実現に向けた課題の共有」

◆ **趣旨**：30～50年先の長期を見据えた温暖化対策が求められて
いる中、我が国の目指すべきESTビジョンとは何か、その
実現に向けて重点的に取り組むべき課題は何か。EST
に関する全国のステークホルダーが一堂に会して行う先
見的な議論を通じて、できる限りの合意点を探ります。

◆ **日時**：2006年3月17日(金)午後～18日(土)午後（1泊2日）

◆ **場所**：新横浜プリンスホテル

◆ **主催**：ESTステークホルダー会議実行委員会

(スライド14)

アジアにおける EST の必要性というのがあります。
アジアにおきましては“EST 視点を欠いたまま急速
に進む経済成長と都市化”というのが、急速に発展
する国で顕著にわかっておりまして、それにつきま
しては、わが国の公害経験に基づく教訓に基づいて、
これらの国に、日本としましても、支援していくこ
とが必要だと考えられます。

アジアにおけるESTの必要性

～ESTの視点を欠いたまま
急速に進む経済成長と都市化～



- ・地球温暖化対策
- ・MOGs(ミレニアム開発目標)
- ・アジア地域の健全な発展と一体不可分なわが国

わが国の公害経験に基づく教訓

- ～高度成長期の公害経験(大気汚染の経験)～
- ・後半に回った環境対策
- ・環境マインドの醸成
- ・予防的対策の発想
- ・環境管理のシステムと技術のバランス
- ・環境対策は経済合理的(ドゥ・アップル)

(スライド15)

実際その取り組みは始まっており、アジア EST プ
ロジェクトもまさに始まったばかりでございます。
「環境と交通に関する世界会議 in 愛知」の一部と
して、「第1回アジア EST 地域フォーラム」を設置
して行われています。「戦略計画・アクションプラ
ン」ということでベトナム、ラオス、カンボジアに
おける戦略計画というのが策定されております。こ
ういった EST の実現に向けた取り組みが、国内だけ
でなく、世界規模で広がりつつあるというのを踏ま
えつつ、環境省としては、多様な地域に応じた EST の実現に向けた取
組みを、支援して参りたいと考
えております。

アジアESTプロジェクト

アジアEST地域フォーラム

第1回フォーラム(2006年3月17-18日開催)



戦略計画・アクションプラン

ASEAN10ヶ国(ベトナム、ラオス、カンボジア)に
おける戦略計画策定



アジア諸国における環境的に持続可能な交
通(EST)の実現を支援。

- ・日本、シンガポール等が支援しながら、UN
CED(国連地域開発センター)と共同で
2004年より実施。
- ・日・中・韓・モンゴル・ASEAN10ヶ国の環
境・交通担当省庁、国際機関等が参加。
- ・参加国高級事務レベルによる政策対話と
国家EST戦略計画・アクションプランの策
定支援を実施。
- ・2006年8月、環境と交通に関する世界会議
in 愛知の一部として、第1回アジアEST地
域フォーラムを設置、愛知宣言を採択。

(スライド16)